

2025年 11月度 売上速報

■ 百貨店事業

阪急阪神百貨店	売上高前年比(%)
阪急本店	100.7
阪神梅田本店	123.3
支店計	102.8
全店計	103.6

※2022年3月期より「収益認識に関する会計基準」を適用しておりますが、月次の売上速報および営業概況につきましては、当該基準等適用前の取扱高で開示しております。

○ 全店の概況

- ・ 阪急本店の大型改装に伴う売場閉鎖のマイナス影響が依然継続する中、国内売上高は前年を上回り好調で都心店計、郊外店計、全店計いずれも前年の売上高を上回った。一方、免税売上高は前年をやや下回った。中国のお客様の免税売上高は月間としては前年を上回ったが、日中関係の緊張の高まりの影響もあり、11月後半は海外VIP顧客以外のツアー客の売上高が約2割減と前年を大きく下回る推移となった。
- ・ 段階的に改装を実施していた阪神梅田本店において、地下1階と1階の食品フロアがリニューアルオープン。全国各地のローカルフードの品揃え拡充や、全国初出店ブランドなど話題性の強化により、食品物販の売上高が約2割増と前年を大きく上回る推移で、店舗全体としても前年売上高に対し約2割増と高伸。

○ 阪急本店の概況

- ・ 6階のフロア全体の閉鎖など、全館の大型改装に伴う売場縮小のマイナス影響が継続する中、国内売上高は前年を上回り好調。店舗全体として、同月の売上高で2ヶ月連続過去最高を更新。
- ・ 11月に入りようやく最高気温が20℃を下回る日が増え、ジャケットやコートなど秋冬の衣料が好調に推移し、モードファッションでは約3割増、コンテンプラリーファッションでは約2割増と、前年の売上高に対してそれぞれ高い伸びを示した。また、アクセサリでは引き続き「ライタールネーズ」が好調で、前年の売上高に対して約1割増と高伸した。
- ・ 100万円以上の高額品の売上高は、前年に対し約1割増と高伸し、全体の売上高を下支え。

※過去1年間の売上高推移

前年比(%)

	2024年度					2025年度							
	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月
阪急本店	113.8	113.5	112.3	103.8	96.4	92.2	85.2	81.8	86.6	103.1	99.2	104.9	100.7
阪神梅田本店	79.2	109.4	90.6	92.4	92.1	95.4	102.8	109.2	106.6	118.3	134.0	112.7	123.3
支店計	103.8	101.7	101.3	98.0	97.7	95.2	95.5	92.8	94.3	104.1	99.4	102.6	102.8
全店計	105.8	108.7	106.0	100.6	96.4	93.5	90.2	87.9	91.2	105.1	103.2	104.9	103.6

■ 食品事業

食品スーパー計	売上高前年比(%)
既存店計	103.5

★数値は速報値のため、確報値とは誤差が生じることがあります。

<本件に関するお問い合わせ先>
エイチ・ツー・オー リテイリング株式会社 メディアリレーション部 TEL:06-6367-3181